

科目概要 《専門科目》

医療・福祉マネジメント研究科

医療・福祉マネジメント専攻 修士課程

2024年度以前入学者対象開講科目

□講義科目(専門科目) ※2 年次履修登録可(1 年次は聴講のみ可)

科目名	福祉産業論	2 単位
担当者	後藤 芳一 (非常勤教員)	
テーマ	修士論文を作成に必要な基本的な研究の方法論(枠組、研究・論文の必要条件、技法など)を学ぶ。産業を分析するために必要な経営の基本的事項(例:戦略、マネジメント)の理論と実践力を学ぶ。講義は演習を中心に行い、福祉用具産業などに触れる。	
開講形態	対面形式	
科目のねらい	<キーワード> 論文の枠組、課題の構造化、経営戦略、企画立案とマネジメント、福祉産業 <内容の要約> 修士論文の作成に必要な基礎学力(例:研究の意義、論文の枠組、研究・論文であるための要件、技法(課題発見と構造化, 論理と分析, 文章, 図表))と、将来、本格的研究をめざす際に必要な姿勢の修得をめざす。 合わせて、産業を理解するために必要な経営の基本的事項(例:市場、戦略、事業モデル、マネジメント、マーケティング、組織、経営分析)を学ぶ。戦略やマネジメントの知見は、研究を行う力としても寄与することをめざす。 <学習目標> 医療・福祉マネジメントの基礎的概念を理解して応用例を示すとともに、意義を事例と共に示すことができる。 論文執筆に必要な研究の方法論を理解できる。自らの考えを論理的に組み立てて他者に説明し意見交換できる。	
授業の進め方	第1 回 講義の目的(研究の目的と意義、マネジメント理論の研究への活用) (())内の前半は医療福祉の研究に関わること、後半は経営やマネジメント関係(以下同じ) 第2 回 枠組の俯瞰(医療福祉事業の形態、公共と営利・効率と公正) 第3 回 理論と歴史(量的・質的研究、マネジメント理論の発展) 第4 回 社会の動向(社会保障への要請、成熟社会と持続性) 第5 回 福祉と産業(産業の医療福祉における役割、競争とポジショニング) 第6 回 資源の管理(研究資源と組合せ、分析の基本的技法) 第7 回 課題の設定(研究の範囲と階層、スコープと体系図) 第8 回 対策の立案(研究方針の選択、経営資源の統合と代替案の比較) 第9 回 分析と評価(研究資源と組合せ、経営の分析法と統計) 第10回 運営と管理(研究の工程管理、マーケティング・ミックスとプロジェクトマネジメント) 第11回 意思決定論(代替案の立案、意思決定(感度分析ほか)) 第12回 組織と体制(研究とキャリアパス、動機づけ・リーダーシップと組織) 第13回 論文の文章(論理と文章、縮約) 第14回 事例と演習(研究論文、事業モデル) 第15回 講義の総括(研究・論文とマネジメントの関わり) (演習を中心とするので、上の内容を盛り込みつつ、順序は変更することがある)	
事前学習の内容 学習上の注意	・講義では、発言や発表を歓迎し重視する。 ・発言や発表の内容は、毎回講義の前や講義中に出題する演習課題、自身の研究の進捗、その他公私の活動などを期待する。 ・上記の発表は基本的に任意なので、積極的な姿勢で講義に参加する事が望ましい。 ・テキストを、指定する講義回までに読んでおくこと。	
本科目の 関連科目	研究方法概論、医療福祉経営論、医療・福祉政策と経済(医療福祉経済論)、医療・福祉マネジメント(保健・医療・福祉サービス論)、経営管理概論	
テキスト	後藤芳一・星川安之(2011)『共用品という思想』岩波書店 後 正武(2001)『意思決定のための「分析の技術」』ダイヤモンド社 ほかに、毎回、資料を配付	
参考文献	* 鷲田小彌太『入門・論文の書き方』PHP新書, 1999 * 清水幾太郎『論文の書き方』岩波新書, 1959 * 大野 晋『日本語練習帳』岩波新書, 1999 * 石村貞夫『入門はじめての統計解析』東京図書, 2006	
成績評価方法 と基準	演習(30 点)、課題発表(30 点)、レポート(20 点)、講義への寄与(20 点)により評価し、総合評価 60 点以上を合格とする	

□講義科目(専門科目) ※2 年次履修登録可(1 年次は聴講のみ可)

科目名	経営管理概論	2 単位
担当者	柳 在相	
開講形態	ハイブリッド形式	
テーマ	医療福祉の経営戦略とマネジメント	
科目のねらい	<キーワード> 戦略的意思決定、戦略策定の進め方、経営戦略の中核理論、組織と成果のマネジメント <内容の要約> 本講義の狙いは、組織の存続および持続的成長に着目し、経営戦略の策定及び実行におけるマネジメントの役割が理解できるように努めることである。まずは経営戦略の中核理論について体系的に理解を進めた上で、組織の本質や組織文化、戦略的組織などについて検討する。そして、イノベーションの構図やパターン、変革のリーダーシップなどについての知識を吸収した上で、現実の事例をとりあげ、ケース・スタディをおこなうことにする。 <学習目標> * 医療・福祉マネジメントに関わる基礎的諸概念の応用例を示すことができる。 * 医療・福祉組織におけるマネジメント及び多色種連携の意義を把握できる。 * 自らの考えを明確かつ論理的に組み立てて他者に説明し、意見交換できる。 * 基本的人権擁護の意義や個人情報保護の必要性などを説明できる。	
授業の進め方	第 1 回 経済とは何か 第 2 回 マネジメントとは何か(経営組織としての使命と役割) 第 3 回 「クロズド組織(管理論)」から「オープン組織(戦略論)」へ 第 4 回 医療福祉のための経営戦略(1) 第 5 回 医療福祉のための経営戦略(2) 第 6 回 医療福祉のための経営戦略(3) 第 7 回 医療福祉のための経営戦略(4) 第 8 回 組織マネジメントの基礎 第 9 回 人のマネジメントとリーダーシップ 第 10 回 組織文化とマネジメント 第 11 回 経営戦略としてのイノベーション 第 12 回 医療福祉のためのイノベーション(1) 第 13 回 医療福祉のためのイノベーション(2) 第 14 回 医療福祉のイノベーション(ライブケース) 第 15 回 医療福祉の経営戦略と組織マネジメント(まとめの講義)	
事前学習の内容・学習上の注意	○テキスト「経営学総論」について事前に次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 ○毎回授業では、まず担当者から報告をしてもらった上で、ディスカッションを行うので、積極的な姿勢で臨むこと。 ○やむを得ない事由などにより欠席する場合には、講義のZoom記録を聴取した上で、レポート提出で対応することを認める。	
本科目の関連科目	医療福祉経営論、暮らしと医療福祉制度(医療福祉政策論)、人材マネジメント論、マーケティング論	
テキスト	拙著『経営学総論』白桃書房、2020	
参考文献	拙著『ベンチャー企業の経営戦略』中央経済社、2003 拙著『JA イノベーションへの挑戦～非営利組織のイノベーション』白桃書房、2009	
成績評価方法と基準	担当の小レポート及び期末レポート(60%)、ディスカッションへの参加度(40%)の方法で評価をおこない、全体で 60%以上を合格とする。	

□講義科目(専門科目) ※2 年次履修登録可(1 年次は聴講のみ可)

科目名	マーケティング論	2 単位
担当者	小木紀親(非常勤教員)	
開講形態	対面形式	
テーマ	企業・医療・福祉・行政・地域・生活者などの視点から多面的にマーケティングをとらえる	
科目のねらい	<キーワード> マーケティング／医療・福祉のマーケティング／行政・地域のマーケティング／ケースメソッド <内容の要約> 本講義(講義形式)の目的は、マーケティング理論を習得するとともに、市場競争及び差別化の概念と、実際の企業及び非営利組織(医療・福祉・行政を含む)のマーケティング戦略の仕組みを多面的に理解していくことにある。具体的には、マーケティング戦略の4つの軸(製品、価格、流通チャンネル、プロモーション)を中心として、関連論文、ケースメソッドなどを活用しながら、今日的な企業及び非営利組織(医療、福祉、行政など)のマーケティング活動や市場における多様なマーケティング現象を、批判的精神でもって理解・考察していく。また本講義では、医療・福祉マネジメントを強く意識し、各受講者の研究の方向性(フィードバックを含む)、ケースメソッド、ショートケースの作成なども行っていく。なお、毎回の講義においてフィードバック・ふりかえりを行う。 <学習目標> ・批判的精神を持ち、マーケティングの基礎と応用を理解することができる。 ・企業、医療・福祉、行政・地域等においてマーケティング的な考察ができる。 ・ケースメソッドにおける議論・作成などを行うことができる。 ・自身の問題意識や関心をまとめるために必要な情報を収集することができる。 ・医療・福祉マネジメントに関わる基礎的諸概念の応用例を示すことができる。	
授業の進め方	第 1 回 導入講義(マーケティングとは／批判的精神とマーケティング／評価方法) 第 2 回 現代マーケティングの潮流 第 3 回 マーケティングの基本体系 第 4 回 製品戦略／価格戦略 第 5 回 流通チャンネル戦略／プロモーション戦略 第 6 回 医療・福祉のマーケティング 第 7 回 行政・地域のマーケティング 第 8 回 ソーシャルビジネス 第 9 回 中間フィードバック 第10 回 ケースメソッド①(ケースとは／ケース作成のポイント) 第11 回 ケースメソッド②(企業戦略) 第12 回 ケースメソッド③(ソーシャルビジネス) 第13 回 ショートケース構想発表 第14 回 ショートケース構想に対してのディスカッション 第15 回 総括及びフィードバック・ふりかえり	
事前学習の内容・ 学習上の注意	・事前学習として、先に配布する講義資料や論文を十分に予習すること。 ・次回以降の講義範囲を予習し、専門用語の意味などを理解しておくこと。 ・事前・事後の学習をあわせて、各回2～3時間程度を要する。	
本科目の関連科目	医療福祉経営論、経営管理概論 など	
テキスト	講義中に適宜指示する。	
参考文献	小木紀親『マーケティング EYE【第 6 版】』中部経済新聞社、2025 年。	
成績評価 方法と基準	授業内レポート(45%)、授業内の貢献度・ディスカッションへの参加度・受講態度(20%)、課題・ショートケースの作成(35%)、その他、などから総合的に判断し、全体で 60%以上を合格とする。	

□講義科目(専門科目) ※2 年次履修登録可(1 年次は聴講のみ可)

科目名	医療福祉経営論	2 単位
担当者	若山 雅博	
テーマ	医療福祉経営の基本的視座	
開講形態	ハイブリッド形式 ※仕事都合で間に合わない場合、リモート参加可。基本は対面形式が望ましい。(ゲスト講義は対面参加)	
科目のねらい	<キーワード> 1)医療福祉サービスの特性とサービス・マネジメント 2)医療福祉専門職と専門職組織、医療福祉組織のマネジメント <内容の要約> 医療福祉(介護)を取り巻く経営環境は今や激動期を迎えている。医療・介護・福祉といった社会保障に対して財政の逼迫や財政構造改革の中での予算の抑制などが医療福祉経営に大きな影を落としつつある。サービスの提供側も経営の効率化を一層求められている。しかし、医療福祉経営には多くの特性があり、企業の経営理論をそのまま適用して経営(改革)を行おうとしても多くの困難がある。加えて、少子高齢化の影響により、医療福祉(介護)人材不足が深刻度を増すばかりである。今後、医療福祉は人材マネジメントが経営の中核となる。そのため本講義では医療福祉経営を研究しようとする人々のために基本的な視座を提供する。 <学習目標> 1)医療福祉経営の基本的視座を理解することができる。(サービス・マネジメント、社会学、経営学、政治学等) 2)文献を批判的に検討できる。 3)プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけることができる。	
授業の進め方	本講義は隔週開講とする。 第 1 回 オリエンテーション 第 2/3 回 ヘルスケア・サービスの特性(ヘルスケア・マネジメント:第 1 章) 第 4/5 回 ヘルスケア・サービスの顧客とサービスの構造(ヘルスケア・マネジメント:第 2 章) 第 6/7 回 ヘルスケア・サービスの交換過程(ヘルスケア・マネジメント:第 3 章) 第 8/9 回 ヘルスケア専門職(ヘルスケア・マネジメント:第 4 章) 第 10/11 回 ヘルスケア組織(ヘルスケア・マネジメント:第 5 章) 第 12/13 回 人と組織のマネジメント(ヘルスケア・マネジメント:第 6 章) 第 14/15 回 ヘルスケア・サービスの供給制度(ヘルスケア・マネジメント:第 7 章)	
事前学習の内容 学習上の注意	履修者は指定された文献とそれに関わる参考文献を読んだうえで、報告用のレジюме(報告担当者はA3 用紙一枚(A4×2)、他の参加者はA4 用紙一枚)を作成して参加する。レジюмеの作成方法は第 1 回のオリエンテーションで説明する。 サービス・マネジメント、経営学、社会学、政治学(政策)の基礎的な知識の修得と理解を深める。	
本科目の 関連科目	暮らしと医療福祉制度(医療福祉政策論)、経営管理概論、マーケティング論、人材マネジメント論、医療・福祉マネジメント(保健・医療・福祉サービス論)、医療・福祉政策と経済(医療福祉経済論)	
テキスト	基本テキストとして以下を使用する。 中島明彦『ヘルスケア・マネジメントー医療福祉経営の基本的視座(第 2 版)』同友館, 2009 年。	
参考文献		
成績評価方法 と基準	報告内容とディスカッションへの参加で評価する。報告用レジюмеの提出と発表(60 点)、ディスカッションへの参加(40 点)により合計 60 点以上を合格とする。	

□講義科目(専門科目) ※2 年次履修登録可(1 年次は聴講のみ可)

科目名	会計学 (隔年開講科目: 2025 年度開講)	2 単位
担当者	新谷 司	
開講形態	ハイブリッド 形式	
テーマ	社会福祉法人の計算書類の作り 方(簿記を含む) 及び読み方を理解し、加えて同法人の経営分析の方法を理解する。	
科目のねらい	<キーワード> 社会福祉法人、社会福祉法人会計基準、資金収支計算書、事業活動計算書、貸借対照表、簿記、経営分析 <内容の要約> 社会福祉法人の計算書類 (財政状況を特定の項目と金額で表示した表) の作り 方及び読み方を学び、同法人の計算書類等に基づく 経営分析の方法を学んで、特定の社会福祉法人の計算書類等を利用して同法人の経営分析を試みる。 社会福祉法人の計算書類を作るためまたは読むためには、制度として定められた社会福祉法人会計基準や簿記と呼ばれる慣習等に従う必要がある。このため会計基準と簿記の基礎を学ぶ必要がある。一方社会福祉法人の経営分析を行うためには、当該法人の計算書類を入手し、その計算書類等を分析する経営分析の方法を利用する必要がある。このため、計算書類を入手する方法と経営分析の方法の基礎を学ぶ必要がある。 <学習目標> ・ 社会福祉法人の計算書類の主な表示形式と表示項目を説明できる。 ・ 社会福祉法人における基本的な取引を簿記に基づいて仕訳することができる。 ・ 社会福祉法人の計算書類の入手方法、基本的な経営分析の方法を説明できる。 ・ 特定の社会福祉法人の計算書類等に基づいて経営分析を行うことができる。	
授業の進め方	第 8 回から第 15 回までを対面形式にする 予定である。 第 1 回 社会福祉法人と 会計 第 2 回 社会福祉法人の会計基準と 計算書類 第 3 回 資金収支計算書の概要 第 4 回 事業活動計算書の概要 第 5 回 貸借対照表の概要 第 6 回 簿記の特徴と 仕訳の方法 第 7 回 仕訳から 決算までの簿記手続き 第 8 回 経営分析に必要な計算書類等と 経営分析の方法 第 9 回 法人単位及び拠点区分の計算書類の経営分析の方法と 法人単位の貸借対照表に関する経営分析表と 経営分析書の作成方法 第 10 回 法人単位の事業活動計算書と 資金収支計算書に関する経営分析表と 経営分析書の作成方法 第 11 回 社会福祉法人の法人単位の経営分析事例 1 第 12 回 社会福祉法人の法人単位の経営分析事例 2 第 13 回 社会福祉法人の法人単位の経営分析事例 3 第 14 回 日本公認会計士協会と 福祉医療機構による 社会福祉事業の経営指標 第 15 回 厚生労働省等による 社会福祉事業の経営指標	
事前学習の内容・学習上の注意	受講者は、講義と 演習の繰り返しで学習するが、演習のために電卓等の計算器とノートパソコン 及び表計算ソフト (エクセル) を準備して頂く。ノート パソコン 及び表計算ソフト (エクセル) は、計算書類に基づいて経営分析等を行う 演習で利用する。	
本科目の関連科目	直接関連する科目はない。	
テキスト	講義時に必要な教材を 配布する 予定である。	
参考文献	特に 指定しない。	
成績評価方法と基準	提出レポート (60 点) と 講義時の積極的質問・ 発言内容(20 点) と 出席回数(20 点) により評価する。総合評価で 60 点以上を 合格とする。	

□講義科目(専門科目) ※2 年次履修登録可(1 年次は聴講のみ可)

科目名	精神保健福祉論 (隔年開講科目、2025 年度開講)	2 単位
担当者	大谷 京子	
開講形態	ハイブリッド 形式	
テーマ	精神保健福祉領域における実践、現状と課題	
科目のねらい	<キーワード> 精神保健福祉、ソーシャルワーク、地域生活支援、実践理論、障害者福祉の理念 <内容の要約> 精神障害が日本の歴史の中でいかに扱われてきたかを概観し、それが現状にどのような影響を落としているかを学ぶ。またソーシャルワーク実践の基礎となる理念、理論についても議論する。その上で、精神障害者の不利益を知り、生活支援のあり方を検討する。事例を題材としながら、精神障害者に対するサポートの現状と課題を検討したい。 <学習目標> ①日本の精神保健福祉の現状と課題を説明できる。 ②障害の概念・障害者福祉の基本理念を理解する。 ③精神保健福祉に関連するテーマについて、議論し、まとめ、プレゼンテーションできる	
授業の進め方	第1回 オリエンテーション / 第2回 精神障害者の生活実態 第3回 精神障害者家族の置かれている状況 第4回 障害概念の変遷1 / 第5回 障害概念の変遷2 第6回 障害の社会モデルの考え方 / 第7回 精神障害者の権利擁護 第8回 ソーシャルワーク実践が依拠する理念と理論 第9回 エンパワメントとパターンリズム 第10回 チームアプローチ / 第11回 精神障害者地域生活支援の事例検討 第12回 地域精神保健福祉活動の方法 第13-14回 受講者によるプレゼンテーションおよびディスカッション 第15回 まとめ	
事前学習の内容・学習上の注意	□プレゼンテーションについて 後半の授業で、精神保健福祉の現状と課題について、グループで10分程度のプレゼンテーションをしていただきます。たとえば「いかに効果的にチームアプローチを展開できるか」、「精神障害者に対する偏見をなくすためには」など、テーマは自由です。2時間ほど、グループでの検討時間を授業時間内に提供しますが、それだけでは足りませんので、授業時間外での準備が必要になります。 □初回授業の時に、あらかじめ参考文献の中から1冊を読んでレポートを提出してください。日本の精神保健福祉がたどった特殊な歴史と現状を踏まえ、その原因は何かについて考察してください。タイトルは自由です。A4用紙に40文字×40行で1600文字以内です。	
関連科目	なし	
テキスト	テキストは利用せず、プリントなど資料を用意する。	
参考文献	芹沢一也(2005)『狂気と犯罪：なぜ日本は世界一の精神病国家になったのか』講談社。 岡崎伸郎(2020)『精神保健医療のゆくえ—制度とその周辺』日本評論社。 大熊一夫(2009)『精神病院を捨てたイタリア捨てない日本』岩波書店。 滝沢武久(2015)『日本の精神科医療の歴史的検証と政策提言—汝・精神病院から出でて再び故郷(街)に帰らん 20万精神病院長期入院者救済申立書』武久出版。	
成績評価方法と基準	レポート(40%)、プレゼンテーション(30%)、コメントカードの提示(30%)によって評価をおこない、全体で60%以上を合格とする。	